

我「気」の正体を見つけたり

平成 19 年 5 月 21 日 原

私はかなり昔から「気」の正体を掴みたいと思っていた。「気」にもいろいろあるが、解明すべきと考えていたのは「対気」と呼ばれるもので、気効師がこの気を発することにより、武芸者でも跳ね飛ばせるというものである。つまり、「気効」は再現性のある不思議な事象なのである。

「対気」で有名な人に西野皓三という人が居る。西野流呼吸法に関する本を何冊も出しているし、道場も開いて弟子も大勢居る。弟子の中には女優の由美かおるがいるが、この方は 1950 年生まれでありながら、未だに容姿端麗を保っている。

西野流呼吸法の本を読んでみたのだが、本に書いてあることが何故「気」に結びつくのか、どうしても納得できない。実践あるのみなのだろう。

渋谷にあると聞いた西野道場を何時の日か覗いてみたいものと思っていたが、ずっと果たせないでいた。それが、もう 10 年も前になるが、松戸で「気効」の講習会が開かれる聞き及び、試しに参加したことがあった。このときの師範は女性の方で、パワーは西野皓三ほどには遠く及ばなさそうだったが、素直に指示に従い、その一連の「運動」を行った。

このとき、「おや？」と驚かされたことが一度あった。一連の運動というか準備体操の後、先生の指示のとおり両手を少し大きなボールをなで回すように動かすと、何も触っていない手の平でびりびりと「気」を感じることが出来たのだ。「あれ、これは何だろう」と思っている間に、その感触はなくなり、もう再び手をこねくり回しても「気」を感じることは無かった。その後、他の受講者は、全員が「気」で飛ばされるときは飛ばされていたが、私だけ何の影響も無かった。

後で考えてみたところでは、手の平で一瞬感じた「気」は静電気であった可能性である。そして、他の受講者と違い私のみ「気効」に影響されなかったのは「疑り深い性格」の故かとも考えた。「気効」は掛かる人と掛からない人がいるなら、催眠術に近いのかも知れない。

しかし、これらを確認する方法はなかった。講師の先生は私に「若い頃何か武道をやっていたか」と聞いた。やはり先生も私に「気効」が効かなかった理由が判らなかったようだ。私は「無い」と返事をしてしまったが、弓道も武道であることを失念していた。弓道は高校、大学時代に部活として行い、大学の卒業前に三段の免状も取得している。

このような経緯で、一瞬「気」を感じることができたのに、ずっと再現していなかった。ところが先日、一冊の本を読んだ後、「気」を何時でも感じる事が出来るようになったのだ。そして、ずっとこの「気」の正体を考えて結論を得た。

先日、栗田昌裕著「指回し体操が頭と体に奇跡を呼ぶー医学博士が開発した新

方式」廣濟堂出版、1992 年、を読んだ。この本で教えている指の運動は、なかなか難しくて完璧に出来るものではなかったが、それでも指を動かしながら読み終えた。最後の部分にさらっと「こうして気を感じることができます」と書いてあったのだ。

確かに、ボーリングのボールを両手で持っているぐらいの感じで開き、右手を回すと、右手の動きに応じて左手に風圧の動きを感じるのだ。本当に右手の平の団扇効果で風を感じているのであれば、「気」ではない。しかし、右手を 50cm 以上離しても同じように「気」を感じるのだ。

左手を裏返して甲を向けると、甲のほうで「気」を感じる。両手の手の平の間に遮蔽物をおいても「気」を感じることに変わりない。つまり、「気」は何でも透過するのだ。

ところが、他の人に同じように手を動かして貰って「気」感じることは出来なかったし、私が相手に「気」を感じさせることも出来なかった。

数日後、「気」の正体のヒントが別の本から与えられた。

立花隆著「ぼくが読んだ面白い本・ダメな本そしてぼくの大量速読術・驚異の速読術」文春文庫、2003 年、の中の本の紹介に次のような文章があった。

「大泉実成という人は『麻原彰晃を信じる人びと』洋泉社、を書くにあたって、みずからオウム教団に入り 5 ヶ月にわたって他の信者と一緒に修行を積み重ねた。すると、確かに輝く光に包まれるなどの神秘体験が大泉にも起きたとのことなのだ。」

人間の脳は修行によってある種の能力または錯覚を得るのであろう。私の場合は指運動から両手で「気」を発し、かつ「気」を感じることが出来るようになった。オウム教団における一連の修行から「神秘的な光」を感じてしまうようになるのであろう。

これはステレオグラムの知覚と似ている。少しずらして撮られた 2 枚の写真を同時に見ることによって、全く平面状の写真から、遠近を知覚する。考えて見れば、2 次元（2D）情報から 3 次元（3D）を知覚する不思議な能力（または錯覚）である。誰もが保有できる能力であると思われるが、たまにこの 3D 写真で遠近がわからないという人もいる。少し訓練が足りないだけであろう。

これらのことを総合すると「気」は人間の脳が勝手に知覚する現象の一つなのだ。手のひらで感じる「気」は右手の動きにより、脳の中で勝手に左手に風を感じるわけだ。従って、物理的に「気」を発しているわけでもないし、手の平の触覚が何かを感じているわけでもないのだ。対気で他人が飛ばされるのも飛ばされる人の脳が勝手に何かを感じて体に反応させているに違いない。修行に励んだ人ほど飛ばされ易いこともこのことを裏付ける。

結論：「気」の正体は脳の錯覚現象である。

（完）